

ハワイ島の不可欠路線 (EAS) 向け運航サービス

ハワイ諸島間をつなぐITCのリース先運航会社

毎月業界のトピックをご紹介する本書ですが、2月はハワイ諸島間の交通インフラを支える弊社 (ITC) のリース先運航会社についてご紹介します。

■ ハワイ諸島間の移動手段として欠かせない航空機

米国ハワイ州は全長約2,400キロに渡る8つの島と100以上の島々で構成されており、人口は約140万人、年間航空利用者数は約880万人に上ります。州内には州政府が運営する15の空港があり、各島嶼には最低1つの空港が整備されています。国際空港は、カウアイ島、ハワイ島 (2か所)、オアフ島、マウイ島に設置されている5空港のみとなっております。



■ ハワイのEAS向け運航サービスで「寡占市場」を形成するリース先運航会社

ハワイ諸島間の空港配置 (主要空港のみ記載)



不可欠(Essential Air Services、略してEAS) 路線は地方路線維持を目的に導入された制度で、公開入札により選定された事業者に対し、政府助成金を拠出する仕組みです。ハワイの様には多くの島嶼が存在する地域では、飛行機が安全且つ迅速な交通手段として日々の生活に欠かせないものとなっております。またその多くは、1時間以内の短い航路となっております。ハワイ州におけるEAS路線はかつて多くの市場参加者がおりましたが、現在では、弊社リース先1社が独占的に運航しております。

2024年には、FAA Reauthorization Act of 2024の法改正により、旅客一人当たりの助成金上限がこれ迄の200米ドルから650米ドルに引き上げられた事で、これまで地域経済を支えてきた弊社のリース先を含めたEAS運航会社にとって、経営収益性を大きく改善することになります。ITCは2011年にEAS路線にリース会社として参入しましたが、これからも過疎地の人々の生活を支えていく為に、EAS路線案件に積極的に取り組む所存でございます。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。